



平成 17 年度

2005

財団法人吉田福祉基金も11年目に入り、過去10年間の事業展開を振り返り吉田福祉基金助成活動10年「安心とゆとりのために」を500部発刊し三重県下の老人福祉関係法人、三重県及び各市町の行政機関等に贈呈いたしました。

地域福祉の発展に寄与したことに対して多気町制50周年で感謝状の贈呈を受けると共に桑名市社会福祉協議会からも寄贈に対して感謝状の贈呈を受けました。

ハード面の助成事業として、公共交通機関の少ない多気町佐奈地区を巡回し一人暮らしや老夫婦世帯の人が利用出来る町民福祉バスの寄贈を行い介護事業施設の更なる充実を図るべく寄贈品の種類を増やし、軽自動車・各種車椅子に加え新たにエアーマットの寄贈を行い、吉田逸郎理事長より目録並びに備品の贈呈を行った。

記念講演では、平成18年4月の介護保険制度改正に伴い三重県健康福祉部、長寿社会室介護保険グループ、西村昭彦グループ長を講師に迎え「介護保険制度の改正について」と題して講演を開催した。

ソフト面の研修事業として、介護施設職員の更なる資質向上を図るため介護施設職員の接遇研修、訪問入浴施設職員研修と多気町と勢和村の合併を控え両町村職員間の意思疎通を図ると共に老人に対する心のこもった接客応対と当財団が行う事業の理解を深めるため多気町役職者を対象にした[“心のサービス”役場職員の接遇マナー]研修会と福祉レクリエーション及び施設入浴研修会を新たに企画し5回の研修会に県下介護施設から78施設155名の参加を得て開催し、ソフト・ハード両面の充実を

図った。

老人福祉団体運営活動事業につきましては、吉田福祉基金杯ゲートボール大会も回を重ねると共に参加を希望するチームも増え充実した大会運営と成ってまいりました。

平成15年度から始まった「平成の大合併」も平成18年1月1日に多気町と勢和村が合併し新「多気町」が誕生し、1月10日の大台町と宮川村の合併による新「大台町」、紀宝町と鵜殿村の合併による新「紀宝町」を最後に平成17年度において26市町村が合併し、新たに3市5町の誕生となり三重県の行政区は29市町となり村が無くなりました、最終的には当財団の助成対象法人も40法人減少いたしました。

内外を見ますとアメリカではハリケーンが襲来して多大な被害をうけ日本でも大型台風が数多く襲来上陸致しました、愛知県では3月25日から万国博覧会“愛・地球博”が開催され予想をはるかに上回る2204万人の観客を集め人気パビリオンでは連日6時間待ちや8時間待ちが出て開催中毎日通い続けたりピーターも出る人気で185日間の幕を閉じました。

4月にはJR福知山線で脱線事故があり事故史上4番目となる107人の死者と555人の重軽傷者を出す大惨事が発生し、12月に入り数10年ぶりの大寒波が日本列島に流れ込み各地で記録的な積雪となりJR羽越線で突風による脱線横転事故があり多数の死傷者を出しました。

平成17年度助成事業目録贈呈式



吉田逸郎理事長挨拶



寄贈品並びに目録贈呈



記念講演



贈呈式

老人福祉施設等整備事業(助成・寄贈)

9,868,110円

平成17年度
寄贈品
一覧



ワンボックス車／1台



軽自動車／6台



エアーマツ／4台



スタッフジャンパー・ Poloシャツ・帽子一式／20組



自走式・介助用車椅子／50台



フルリクライニング車椅子／11台



マイチルト車椅子／5台



モジュール車椅子／6台

多気町

老人福祉環境整備事業

4,683,370円

ひとり暮らしの高齢者・高齢者世帯・障害者等が公共交通機関の利用が困難な方や、公共交通機関の無い地域の送迎サービスに必要

◆ ワンボックス15人乗り 1台

訪問指導・健康相談・健康教育等、高齢者福祉の充実を図る

◆ 軽自動車 2台

近 隣

- ・松阪市
- ・伊勢市
- ・多気郡
- ・度会郡

各老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

2,374,680円

吉田福祉基金杯ゲートボール大会で使用するスタッフジャンパー・ポロシャツ・帽子を作成し吉田福祉基金杯ゲートボール大会は基より県内及び全国大会で着用して吉田福祉基金のPRも兼ねる

◆ スタッフジャンパー・ポロシャツ・帽子一式

多気町ゲートボール協会

利用者の病院・買い物等、小回りのきく車輛整備と権利擁護事業の基幹社協として伊勢・鳥羽・志摩地域の広範囲に渡り事業を行う上での車輛不足による整備

◆ 軽自動車 2施設 2台

宮川福祉施設組合（養護 崇雲寮）

（社）伊勢市社会福祉協議会（権利擁護 本所）

老朽化による更新・学校・福祉祭りでの体験用と加齢及び介護度の高い利用者の増加に伴い一般車椅子では対応が困難なため身体状況に対応できる車椅子が必要な利用者の増加による整備

◆ 自走式介助用車椅子 2施設 8台

（社）斎宮会（老保 みずほの里）

（社）南伊勢町社会福祉協議会（デイ 本所）

◆ フルリクライニング車椅子 4施設 4台

（社）長寿会（短期 なでしこえん）

（社）愛恵会（老保 緑風苑）

（社）司 会（老保 弘樹苑）

（社）キングスガーデン三重（特養 共生園）

◆ マイチルト車椅子 2施設 2台

（社）伊勢医心会（特養 神路園）

（社）ゆ り（老保 はなのその）

◆ モジュール車椅子 4施設 4台

（社）慈恵会（特養 正邦苑）

（医）碧 会（老保 なごみの里）

（恩）三重県済生会（特養 明和苑）

（社）北斗会（特養 大宮園）

身体状態の安定保持の継続ができる備品整備

◆ エアーマット 2施設 2台

（社）太陽の里（デイ たいよう）

（社）邦栄会（特養 双栄会）

左記以外の
県下各市町の
老人福祉施設

老人福祉環境整備事業

2,810,060円

耐用年数の経過に伴う更新と山間部への送迎が狭い道が多く小回りのきく車輛が必要なための整備

◆ 軽自動車 2施設 2台

- (社) 柊 会 (特養 華旺寿)
- (社) 御浜町社会福祉協議会 (デイサービス)

老朽化による更新、車椅子利用者の増加と重度化に伴いニーズに合った車椅子の提供と機能の高い車椅子による介護サービスの向上と身体状況に合った車椅子の提供

◆ 自走式介助用車椅子 9施設 42台

- (医) 青藍会 (特養 ハート)
- (社) 翠明院 (養護 翠明院)
- (社) 安全福祉会 (特養 安全の里)
- (社) 尾鷲市社会福祉協議会 (デイサービス)
- (社) 東員町社会福祉協議会 (貸出)
- (社) グリーンセンター福祉会 (特養 鶴寿園)
- (医) 菰野厚生病院 (医療 療養型)
- (社) 徳寿会 (老保 みのりの里)
- (社) 菰野町社会福祉協議会 (貸出)

◆ フルリクライニング車椅子 7施設 7台

- (社) いろどり福祉会 (デイ 花紬)
- (社) 英水会 (特養 英水苑)
- (社) 宏育会 (特養 よっかいち諧朋苑)
- (社) 慈童会 (特養 くすのき園)
- (社) 天年会 (特養 かなしょうず園)
- (社) 敬親会 (特養 さわやか園)
- (社) 愛友会 (特養 あさひ)

◆ マイチルト車椅子 3施設 3台

- (社) ウエルケア (デイ 津橋北デイサポート)
- (社) 風薫会 (新設特養 風の路)
- (社) エイジハウス (特養 エイジハウス)

◆ モジュール車椅子 2施設 2台

- (社) いがほくぶ (特養 彩四季)
- (医) 福慈会 (老保 ふくにし)

自己での体位変換が困難な利用者の増加に伴う整備

◆ エアーマット 2施設 2台

- (社) 桃郷福祉会 (特養 げいのう逢春園)
- (社) 鈴鹿福祉会 (特養 鈴鹿グリーンホーム)

老人福祉施設団体従事者研修事業

758,140円

第1回 介護事業施設職員研修会（接遇）（4）

（参加 21施設 34名）5月16日

法人（吉創会・宮川福祉施設組合・太陽の里・三重高齢者福祉会・北斗会・碧会・南勢町社協・斎宮会・度会町社協・伊勢市社協・御園村社協・桜木記念病院・二見町社協・川越町社協・青山福祉会・紀南特養ホーム組合・明光会・三重郡老人福祉組合・御浜町社協・敬愛会・紀和町社協）

利用者の満足度を高め、施設をより良い方向に導き、職員を促し、自発的に変えていこうとする意識づくり、職場を活性化していくための「仕組みづくり」と利用者宅への送迎時の訪問に対してのマナー・対応や言葉使いを交えて応対実習を組み入れながらの研修会開催です。研修会も回を増すごとに、受講する皆様の表情や態度、気持ちの持ち方がかわってきて熱心に受講される姿勢が何われ全員最後まで受講され参加者の皆さんからは実践を取り入れた研修内容のため飽きずに楽しく受けられ充実した研修であったとの感想が聞かれた。



講演 “心のサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. お客様（利用者）の満足
2. お客様を迎えるマナー
3. 好感を持たれる話し方
4. 利用者との会話と動作
5. 利用者宅への訪問応対
6. 信頼される電話応対
7. サービスの心得

受講生の感想

自分自身気随ていないところも発見出来た、笑顔で全ての人に大きな声で挨拶出来るよう心掛けたい、日頃の自分の言動を振り返る良い研修と成りました、実技等もあり有意義な研修でした。

第2回 役場職員接遇研修会（1）

（参加者 4事業所 30名）7月14日

職員の皆様は何時も一生懸命業務に励んでおりますが職員が一生懸命している動作、気持ちがお客様（住民）に伝わっているかを振り返りながらお客様に気持ちよく思ってもらえる実習研修を重点に置き、お客様との会話をする時の発声練習、一般来客や上司への取次ぎ、実際直面する応接の基本動作、電話対応、名刺の受け渡し、書類の指し示し方の実習を交えての研修会を行う。



講演 “心のサービス” 職員の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. お客様（利用者）の満足
2. 職場の基本マナー
3. 高齢者に対する話し方
4. 窓口対応
5. 電話対応
6. サービスの心得

受講生の感想

日頃の業務の中で忘れがちな相手（住民）の立場に立った接遇に気が付き電話の対応も顔が見えないだけに難しいことに気がつき基本の再確認ができた。

第3回 訪問入浴施設事業職員研修会（4）

（参加 13施設 30名）7月24日

法人（宮川村社協・伊勢医心会・三重県済生会・二見町社協・吉創会・北斗会・御浜町社協・三重福祉会・志摩市社協・尾鷲市社協・美杉村社協・菰野町社協・いなべ市社協）

平成18年から介護予防訪問入浴介護という新しい事業が始まり、訪問入浴介護個別援助計画の作成が義務付けられるので計画の作成についての項目を設け、また利用者への感染を予防するための手洗いの実習を取り入れた。

訪問入浴は現在厳しい時代にきている、合併症の問題で利用者の対応が難しく感染症患者の対応や退院患者がカテーテル類を装着して在宅医療を受けている等々により入浴技術が問われるため資質向上を目指し、更なる技術の習得を目的に研修会の開催とした。

今回の受講生のなかには直接訪問入浴に携わっていない職員の方も参加していただきお互いの立場の意見や感想を述べられ有意義な研修会と評価を受けました。



講演 訪問入浴介護研修

講師 デベロ老人福祉研究所 斎藤 剛

1. 共通認識事項
2. 訪問入浴介護における感染予防
3. 医療処置者に対する入浴介護
4. 訪問入浴介護計画の作成について

受講生の感想

吉田福祉基金から助成を受けておりますが、基金が助成・寄贈・研修等々を行われ三重県下の介護施設に支援されていることが理解できました。

入浴に関する基本知識は持っていたつもりでしたが、研修を通して再確認ができ細かいところまで知ることができました。

第4回 介護事業施設職員研修会（接遇）（5）

（参加 18施設 30名）9月22日

法人（伊勢医心会・南島町社協・三重県済生会・司会・弘森会・こもはら福祉会・福慈会・志摩広域行政・美杉村社協・志摩市社協・新町福祉会・熊野市社協・ウエルケア・いがほくぶ・こしば福祉会・名張厚生協会・菊寿会・玉城町社協）

絶え間なく変化する現代社会にあって、今あなたに求められるものは環境や社会にうまく適応して行くことです。この変化に適応し、できるだけ多くの事を吸収する能力が「社会」として、いかに有能であるかを物語ります。「自信」とバランスのとれたパーソナリティーがあなたを真に「美しく」します。

この研修は、お互いの協力の基に実習を交えて有意義な研修会となりました。



講演 “心のサービス” 介護従事者の接遇マナー

講師 エム・アール・シー 足坂三長・井ノ口美津子

1. お客様（利用者）の満足
2. お客様を迎えるマナー
3. 好感を持たれる話し方
4. 利用者との会話と動作
5. 利用者宅への訪問対応
6. 信頼される電話対応
7. サービスの心得

受講生の感想

何気なく使っていた言葉が相手にどのような印象を与えていたが不安だったが、自分のためになり身のある研修でした。

言葉遣いなど、明日から実践していけることを勉強できました自分自身、利用者に対して好印象を与えていなかった事が十分わかりました。

ほんの少しの心がけで利用者さんが一日気持ちよく過ごしていただける事を強く感じました、これからは謙虚に「今日一日楽しかった」と思って頂けるよう頑張ります。

分かりやすい説明と実習をふまえ身につく研修でした、直ぐ実践に結びつけることは難しいこともあるが良い機会を与えていただきました。

老人さんの対応の仕方を教えていただき、介護の現場で直接使えることの内容を増やして行きたい。

施設の中では方言も混ざっており地域の方言になってしまうが基本が分かりました。

挨拶がいかに大事か実感しましたので“心のこもった、気持ちのこもった”挨拶を実践して行きたい。

【過去5回の研修会総評（エム・アール・シー足坂三長）】

最初の研修会から振り返って見ますと、受講する皆様の表情や態度、気持ちの持ち方が変わってきました。

当初は、何となく聞いて、一日が終わって帰ればいいと思われる受講態度が見えましたが、それは研修会そのものに慣れていない参加者もいたかも知れませんが研修会を重ねる毎に、参加者の表情が明るく何かを学び取ろうとする態度が見え、参加者の講師を見る目線、真剣にメモを取る姿を見ますと前向きに取り組もうとする参加者が増えて来たのだと実感しました。

初めはお互いに牽制しあっている印象がありますが研修が進むにつれて積極的に取り組もうとする姿勢に変わってきました。

研修会の最後に「自分の気付かない癖を指摘され、直します有難うございました」と感想を述べられる参加者がいました、研修会を前向きに捉えている様子が伺えました。

また、回を重ねる毎に新しい参加者も増え施設における福祉人材への期待の高まりと受け留められ吉田福祉基金のご尽力と思われます。

参加者の中には、前回参加した職員の方から「いい話だから、しっかり聞いて来るようにと言われて来ました」と、話して下さった参加者もいました。

今、利用者の方が施設を選ぶ「選択基準」は、施設の大きさや事業内容・提協サービスだけではなく職員一人ひとりの“心の籠ったおもてなし”のできる人的サービスが求められております。

利用者の方々は、自分を大事にして下さる施設を選ぶのではないのでしょうか、それだけに職員個々の質の高いサービスが必要になってまいります。

第5回 福祉レク・施設入浴介護研修会（1）

（参加 22施設 31名）11月 9日

法人（尾鷲市社協・玉城町社協・大台町社協・度会町社協・むつみ福祉会・愛友会・菊寿会・熊野市社協・北斗会・志摩市社協・紀南特養ホーム組合・鳥羽市社協・太陽の里・伊勢医心会・御園村社協・明合乃里会・桜木記念病院・明和町社協・キングスガーデン三重・長寿会・勢和村社協）

◆福祉レクリエーション

「楽しさいっぱい・笑顔いっぱいのレクリエーション支援を」レクリエーションは歌って踊ってゲームをするのではない。しかし、歌って踊ってゲームをするのは無駄ではなく利用者さんの生活の場に繋がって行くと考えられる。

レクリエーションは利用者さんの心を開くことで楽しい人を支援することで利用者さんが楽しんでいられると思われる時を探していくことです。

福祉レクリエーションは楽しむ事が大事で出来るという喜びを与えることも大切なことで、福祉現場ではその人の持っている残存機能に満足するのではなく少しずつ階段を登るようにしていき出来ないからと切り捨てるのではなく引き出してやるのが大切である、また競争させるのではなく共感と考える。

訓練+マインド（心のこもったハート）、利用者さん同士が貴方と居て良かったと実感するためにグループレクリエーションがある、貴方が居てくれたからレクリエーションが出来た喜びを実感させる材料を提供するこたがホスピタリティあふれる支援者と考えておる。



講演 レクリエーション活動援助

講師 三重県レクリエーション協会 鈴木寿子

1. レクリエーション実技
2. 集団を介した支援のポイント
3. 福祉現場でのレクリエーション支援って
4. 共に生きている喜びを実感できる「グループを介した」支援
5. 「一人ひとりの思い」に寄り添う支援
6. レクリエーションを楽しむ「環境の整備」
7. 生活の快が福祉レクリエーション支援のスタート・ゴール

受講生の感想

レクリエーションがおろそかになっていたこと、折り紙くらいしかしていませんでしたが初めて体験して、これくらいなら出来ると思い早速取り入れます。

参加していただく利用者さんが居ないのではなく参加して頂ける目標を決めてコツコツしてきたいと思いました。

物を使わなくても応用しながら沢山のことが出来ることを教わりました。

レクリエーションの研修は楽しく出来ました。

レクリエーションの進め方など自分のやり方では利用者さんにすいぶん退屈な思いをさせて居た事を感じました。

◆施設入浴介護

公の介護研修会では、入浴介護研修が少ない状況であるにもかかわらず、事故予防・感染症予防・介護予防等の整備が急務とされています。

また、同時に介護老人施設では「生活の場」としての入浴介護を、介護老人保健施設や通所介護では「生活機能の維持・改善」としての入浴介護を目指していかなければなりません。

このような状況のなかで、施設の入浴介護においても「入浴は人間としての尊厳を保障する生活行為である」こと、「入浴そのものの効果を生かす」こと等を十分に認識した知識・技術の積み重ねが、ますます重要性を帯びてきています。

今回は、介護保険制度の改革内容を踏まえながら「事故・感染症・介護」の予防を中心にグループワークを含めた研修会になりました。



講演 施設における入浴介護

講師 デベロ老人福祉研究所 斎藤 剛

1. 施設における安全入浴（デサービスを含む）
2. 施設入浴における感染症予防（デサービスを含む）
3. 介護予防と施設入浴の今後について（デサービスを含む）

受講生の感想

入浴は毎日のことで普段なにげなくしている援助でも一つ一つ、とても深く勉強になりました、安全に快適な入浴を心がけます。

入浴前に頭にかぶり湯をすることがとても脳のリハビリになることは知りませんでした。

他の施設の方との意見交換で交流が持てて良かった。

老人福祉団体運営活動事業

63,838円

第8回吉田福祉基金杯GB大会

後援（財）吉田福祉基金 4月17日

公園の内外の桜も見ごろは過ぎちらほら残る程度で、汗ばむ陽気のなか多気町のびのびパーク天啓GB場において県下54チームから350名の役員、選手が参加し選手たちは一打一打真剣にプレーをし和気あいあいで開催する

優勝 辻久留（伊勢市）チーム
準優勝 南勢（南勢町）チーム
3 位 北小松（四日市市）チーム



開会式



選手宣誓



大会競技



優勝 辻久留（伊勢市）チーム